

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 対象学年

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、支援学校小学部第6学年の全児童<大阪府(公立)実施数 992校 73,084人> 中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、支援学校中学部第3学年の全生徒<大阪府(公立)実施数 470校 69,791人>

(3) 調査内容

- ① 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)
・主として「知識」に関する問題(国語A、算数・数学A)
・主として「活用」に関する問題(国語B、算数・数学B)
・理科については「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う。
② 質問紙調査(児童生徒に対する調査、学校に対する調査)
(4) 実施日 平成30年4月17日(火)

校種・教科・区分別 正答率比較/対全国比経年比較

※H22、H24は抽出調査

Table with columns for school type (小学校, 中学校), subject (国語, 算数, 理科), and year (H19-H30). Rows show scores for A and B regions with differences from the national average.

(1) 学力調査結果の概要

小学校では、すべての教科について改善し、全国水準に近づいたが、国語、理科についてはまだ差が見られ、課題がある。
中学校では、すべての教科について概ね全国水準まで改善したものの、国語、数学のB区分についてはA区分と比べ課題がある。

- 平均正答率の全国との差
小学校：最小-0.1ポイント(算数A) 最大-2.9ポイント(理科)
中学校：最小-0.9ポイント(数学A) 最大-2.1ポイント(理科)

- 無解答率の全国との差
小学校：ほぼ全国平均に近い状況であるが、国語に課題が見られる。
中学校：改善傾向にあるものの、B区分及び理科に課題が見られる。

(2) 学習状況調査結果の概要

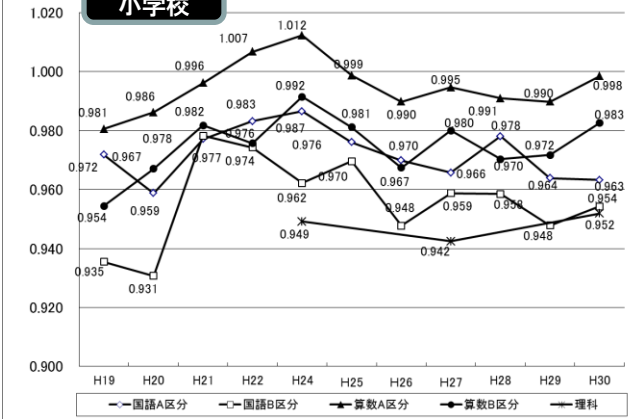
- 小中連携による調査結果の共有が進む
全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣の小中学校と成果や課題を共有する取組みが進んでいる。引き続き、教育活動の改善に向けた取組みを進めることが必要。

- 授業での話し合う活動が充実
話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりできる児童・生徒は着実に増えている。子どもたちが自分で考え、取り組む授業づくりをさらに進めることが必要。

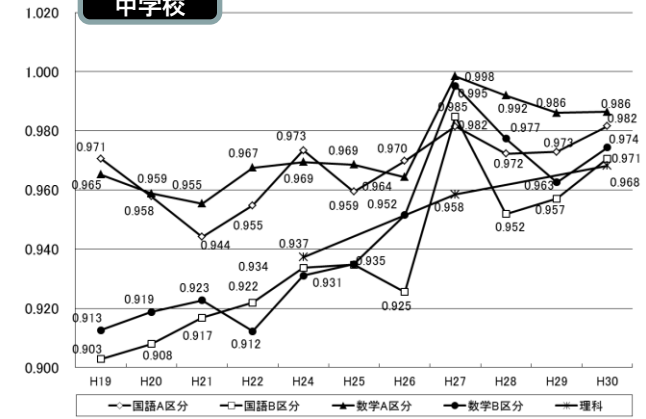
- 家庭学習の定着に向けた取組みが進む
小中学校とも家庭学習の方法を具体的に教える取組みが進み、授業以外の学習時間が30分未満の子どもは減少しているが、全国と比べると依然として多い。さらなる取組みの充実が必要。

- 学びを深めるための学習環境が改善
小中学校とも私語が少なく落ち着いた環境で授業が行われているが、小学校については学校のきまりを守ることに課題が見られる。引き続き、落ち着いた学習環境づくりが必要。

小学校

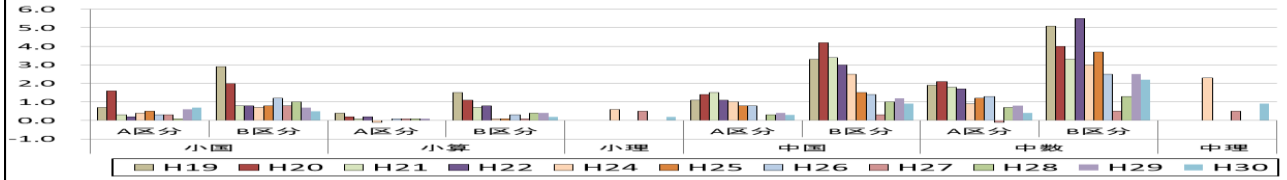


中学校



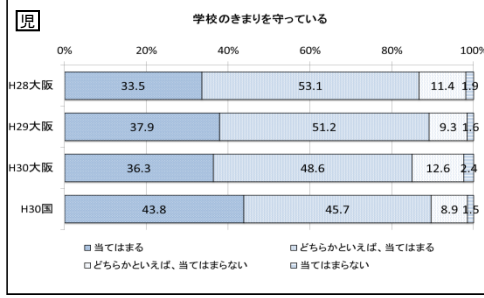
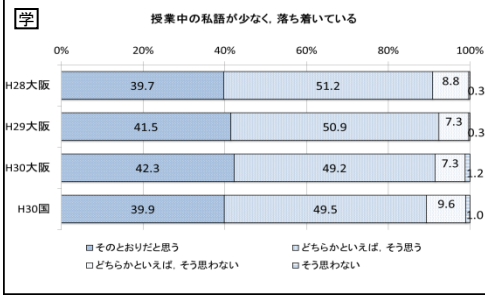
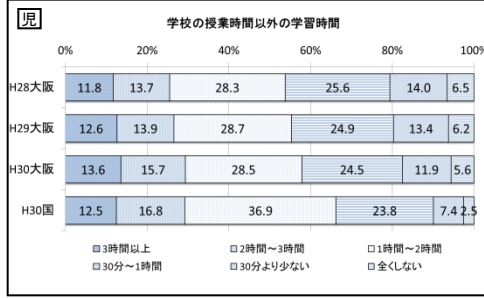
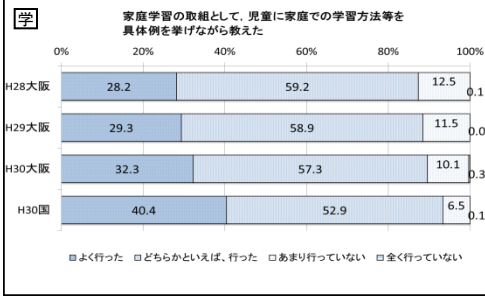
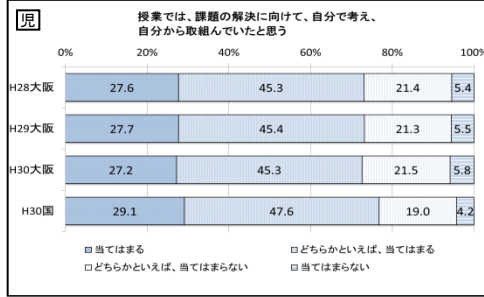
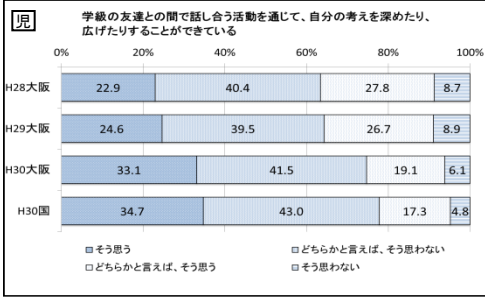
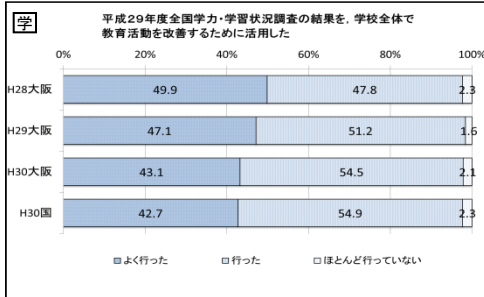
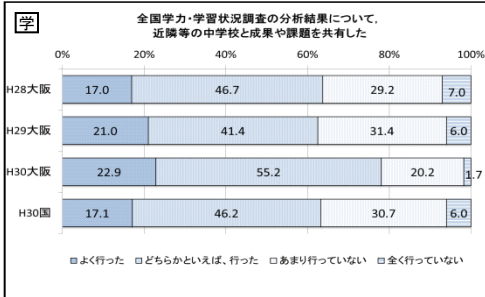
校種・教科・区分別 無解答率 対全国差経年比較

Table showing the percentage of unanswered questions for elementary and middle school subjects from H19 to H30, comparing A and B regions to the national average.



小学校

学...学校質問紙調査 児...児童質問紙調査



中学校

学...学校質問紙調査 生...生徒質問紙調査

